



雑誌や小さな会合、公演など情報  
がありましたら、随時、支店又は  
本社編集局にお知らせ下さい。

c-nippo@chibanippo.co.jp  
http://www.chibanippo.co.jp

# パトロール隊が事例発表

## 成果共有、より強い防犯を

### 交流会に代表者約300人

日ごの市内の各地域で活躍する防犯パトロール隊の交流会が十六日、中央区の市文化センターで開かれた。昨年に続く開催。三種のパトロール方法を展開する町内会、マンション防犯に取り組み住民らの事例発表のほか、子どもを犯罪から守るまちづくりをテーマに講演も行われた。



4つの防犯施策について説明した中村教授  
16日、中央区の市文化センター

市内の刑法認知件数は1000年の約三万三千件をピークに、昨年は約二万三千件と減少傾向だが、十年前の一九九五年の約一・四倍と依然高水準にある。市は、地域に根差した活動を展開する自主防犯組織を重要視し、二〇〇四年に支援制度を創設。それが奏功し、当時の百九十団体程度から約三百八十団体に倍増



した。交流会は、事例発表や講演を、各隊の活動に生かしてもらおうと市が昨年からの開催。代表者約三百人が参加した。事例発表は、まず生実町町内会(中央区)の山

本広副会長が登壇。防犯者への声かけ、発生の腕章・キャップを善用した子ども会や婦人会メンバー、六台の青色回転灯装着車、パトロールステッカーを張った商店の、三者によるパトロール「スリーパトロール方式」を紹介。効果が大きい青色回転灯を装着するまでの手続きの煩雑さについて苦言を呈した。  
続いて、昨年九月に活動を開始した検見川ハウズ(美浜区)防犯パトロール隊の和泉隆三郎・前隊長が、結成までの経緯を説明。活動の苦勞とともに、パトロール、カメラなどの防犯設備、不審者への声かけ、発生の広報など、総合的な活動の大切さを訴えた。  
最後は、環境造園学が専門で、子どもを犯罪から守るまちづくりについて研究する千葉大園芸学部の中村攻(おさむ)教授が、「子どもに対する犯罪とまちづくり」と題して講演。  
中村教授は、学校侵入事件の大阪・池田小、女児殺害事件が起きた奈良県など数々の事件現場で分かったことを話しながら、①学校、公園など子どもの生活の場を犯罪発生を前提に直す②高齢者が安心して出かけるためのまちづくり③子どもを育てる地域の「コミュニティ」を再構築する④住民と行政、警察が対等、平等な立場でタッグを組む⑤の四点を重要な防犯施策に位置づけた。